

今里 悦子 論文審査の要旨

論文題目 ラット CCI 誘発神経因性疼痛モデルの薬理学的特性およびそれに関わる脳内 NMDA 受容体 NR2B サブユニットの関与

神経因性疼痛患者が訴える痛み症状は多様であり、現在のところ、同一の治療薬では良好な治療効果が得られていない。今後の神経因性疼痛治療薬の開発には、混在している痛みを分類し、それぞれの痛みに対する有効性を薬理的に評価することが必須である。そこで本研究では、神経因性疼痛モデルであるラット絞扼性神経損傷 (chronic constriction injury: CCI) モデルが、新規神経因性疼痛治療薬の開発に有用な病態モデルであるのかを薬理的な観点から検証することを企図し、以下の知見を得ている。

1. ラット CCI モデルでは、神経因性疼痛患者と同様に、それぞれ異なる感覚神経を介して伝達される静的および動のアロディニアの両方が発症している。
2. 神経因性疼痛患者と同様に、ラット CCI モデルでは刺激非依存性の自発痛が発症している。
3. 新規神経因性疼痛治療薬として期待される NR2B サブユニット選択的 NMDA 受容体アンタゴニスト CP-101,606 は、脳内 NR2B サブユニットに作用することによって抗アロディニア効果を示す。

以上、本研究の成果に基づき、今後、この病態モデルを活用して、神経因性疼痛の病因解析が進み、患者を痛みから救うことができる優れた治療薬の開発が期待される。ゆえに、本論文は博士の学位論文として十分値するものと判定した。

審査委員 遺伝子機能応用学分野 教授 甲斐 広文






審査委員 薬物活性学分野 教授 香月 博志



審査委員 薬学生化学分野 教授 杉本 幸彦



試験の結果の要旨

報告番号	乙 第 号	氏 名	今里 悦子
試験担当者 (審査委員)	職名	氏名	
	教 授	甲斐 広文	
	教 授	香月 博志	
	教 授	杉本 幸彦	
(成 績)			
<input type="radio"/> 合格		<input type="radio"/> 不合格	
(試験の結果の報告)			
<p style="text-align: center;">上記の論文提出者に対し、学位論文の内容及びその関連する分野について</p> <p style="text-align: center;">種々試問を行った結果、上記成績のとおり判定した。</p> <p style="text-align: center;">よって、同人は、博士(薬学)の学位を受けるに十分な能力を有するもので</p> <p style="text-align: center;">あると認めた。</p>			